

福井県内の多文化交流についての提言

令和5年末時点では過去最高の1万6千人を超える外国人が福井県で暮らし、越前市、福井市を中心に介護等の専門職や県内産業の担い手として様々な分野において活躍している。一方、外国人は日本語の勉強、役所や病院での会話をはじめとする様々なことに不便を感じている。また日本人と外国人の交流の機会が少ないのも課題である。福井県が掲げている、「誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会」を実現し、外国人の方も含めすべての人が輝き、互いに支え合い、幸せを実感しながら、将来にわたり安心して暮らせる社会をつくるために、私達は以下の通り提言する。

○高校留学生の受け入れ

留学生の受け入れを現在より増やすことを提案する。国際科のみならず、普通科にも留学生の受け入れを増やすことで、異文化共生の浸透、英会話の上達につながる。

また、ホームステイのビジネス化を提案する。現在大部分がボランティアで成り立っているホームステイに、お金という利益を与えることで留学希望の外国人をさらに受け入れる事ができる。他団体とも協力しながら、留学生からのお金をホストファミリーにつなぐことで福井県の新たなビジネスを作ることを提案する。

○英語以外の外国語教育の推進

日本の学校教育で行われている英語学習以外の、諸外国語教育を推進していくことを提案する。現在国際社会に通用する人材になるための外国語教育として主に用いられているのは英語であり、それももちろん大切な言語教育の一つであるが、その他の言語、ポルトガル語やフランス語などの外国語教育を推進していく必要があると考える。具体的には、諸外国語の検定試験を福井県内で受けられるようにすることや、外国語学習の機会を与えるセミナーなどの開催などが挙げられる。

また、そのようなイベントや活動が行われているにもかかわらず認知度が低いという問題があるように感じられる。SNSの活用はもちろん、県内の学生などの若者と協働した情報発信を進めていくことが重要だと考える。

○日本人と外国人の交流の場の提供

そこで地域の住民同士の交流の場を増やすことを提案する。外国人は日本の文化を体験できるイベントを望んでおり、地域の祭りなどで多言語によるポスター掲示や宣伝を行ったり互いの文化を学ぶことができるイベントを開催したりすることが有効だと思われる。また言語学習の機会や場所を設けることで互いに言語を教え合うことを通じて交流すれば一石二鳥である。

また、越前市は外国人が多く、それに対して積極的に政策を行っているが、私の住んでいる越前市の地域では、すでにある地域の町内会ごとにある祭りや、草むしりのイベントに十分に外国人が参加できていない。これらは外国人にとって大切な地域の人との交流の場になる。より気軽に簡単に外国人の人が町内会等に参加しやすくなるように、外国人コミュニティリーダーや市町が、外国人にはたらきかける場を増やす取り組みを求める。

令和6年8月9日

福井県知事 杉本達治様

福井県立武生高等学校

チーム「TKF」

飛山 愛梨 河野 光希

高佐 奈那 大久保 里桜